

令和8年度 第1回倉敷科学センター協議会 議事録

- 【日 時】 令和8年8月19日（水）17：30～20：20
- 【会 場】 倉敷科学センター研修室及びプラネタリウム
- 【出席委員】 福田会長、中原副会長、赤堀委員、河村委員、根馬委員、塩田委員、畠中委員、原委員、三重委員、守屋委員
- 【欠席委員】 なし
- 【事務局】 仁科教育長、永野部長、丸野所長、浅野館長、三島主幹、石井主幹、袖岡主幹、千田事務員
- 【傍 聴 者】 3人

1 開会

【事務局】 これより倉敷科学センター協議会を開催いたします。まず、会議の成立について確認いたします。倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により、委員の半数以上の出席をもって会議が成立となります。委員数10人のところ、本日の出席者は10人ですので会議は成立しております。また、この会議は原則公開となっており、本日の傍聴者は3人です。

- (1)挨拶（福田会長、仁科教育長）
- (2)委員紹介
- (3)事務局紹介

2 諮問

【事務局】 本日御協議いただく事業計画について、諮問させていただきます。

（諮問） 令和8年11月期及び令和9年3月期全天周映画上映作品の選定について

【事務局】 ここから議事進行を福田会長にお願いいたします。

（ここから福田会長が議事を進行）

3 報告・協議事項

- (1)「倉敷科学センター協議会の会議の公開要領」の改正について

【会 長】 まず次第3(1)「倉敷科学センター協議会の会議の公開要領」の改正について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 資料をご覧ください。この表は令和7年度中に開催され、情報公開室のホームページに掲載されている審議会の議事録のうち、署名、押印、署名した役職人数について調べたものです。25の審議会があり、自筆署名を必要としたものはそのうち17、うち署名人が押印しているものは8ありました。科学センター協議会は現在、会長1人、議事録署名人2人の計3人で署名を行っています。氏名については印字ですが、押印を必要としています。この運用について、審議会の議事録を所管する法務課情報公開室に問い合わせたところ、それぞれの審議会において会議の公開要領で規定すれば良いとの回答を得ました。そこで改正案を次のように検討しました。

まず会議開催の事前公表について、「パナピオス電子ファイルにより市総務課情報公開室に送信する」とありますが、パナピオスという形態は現在ありませんので削除します。また、情報公開室の所管が総務課から法務課に所管替えされていますので、修正します。続いて傍聴者の決定方法について、傍聴の受付開始を会議開始の30分前から15分前に短縮します。ただし傍聴の受付開始時点で、傍聴希望者が定員5人を超えた場合は抽選とします。最後に 会議録の作成及び公開についてですが、協議の内容の記述は、発言者について「会長」、「委員」、「事務局等」を区別し、発言された内容については「要旨とすることができる」とします。また、会議録の確定を「会長及び会議において会長が指名した議事録署名人2人による承認」から「会長による承認」に変更し、署名および押印を必要としない運用に変更します。この改正により、事務手続きの時間や郵送代を削減できると考えております。審議のほどよろしく申し上げます。

【会 長】 ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆様から御意見や御質問はありませんでしょうか。

【委員からの意見なし】

【会 長】 それでは次第3(1)「倉敷科学センター協議会の会議の公開要領」の改正については認められたものとします。今回から議事録の確認は会長の責任において行いますので、よろしく申し上げます。

(2)令和7年度事業実績について

(3)令和8年度事業計画について

【会 長】 つぎに次第3の(2)令和7年度事業実績について、及び(3)令和8年度事業計画について、事務局から説明を受けたいと思います。

【事務局】 資料をご覧ください。事業実績については、令和8年3月に開催した協議会で当時の実績をご報告しておりますので、その後に確定した金額や人数を中心に説明します。まず科学センター事業についてですが、決算額は108,661,546円でした。歳入額の主たるものは観覧料で、30,910,642円です。令和6年度比で約200万円の増額となっています。利用者数は18万5,281人で、前年度比で約9,000人の増加で

す。主な要因としては、全天周映画『ドラえもん』の人気によるものと考えております。続いて、講座・イベント普及事業についてです。利用者数は2,840人で、前年度比516人の増加となりました。「アストロクラブ（中高生を対象とした天文部のようなもの）」は、前年度は参加者がいませんでしたが、令和7年度は4回で延べ26人の生徒が参加してくれました。

また、科学センター入館500万人達成を記念してセレモニーを3月29日に開催しました。500万人目の入館者には認定証と入門用の天体望遠鏡を贈呈し、記念撮影を行いました。資料中の入館者数を表したグラフをご覧ください。平成5年のオープン以来順調に伸びており、夏休みの企画展が好評だった平成14年や、はやぶさの帰還カプセルを展示した平成23年には入館者数が突出していますが、令和2年から令和4年はコロナ禍のため大きく減少、また平成30年には400万人を達成していたものの、西日本豪雨の影響でセレモニーは中止となっていましたので、今回の500万人達成は感慨深いものがあると思っています。

続いて事業計画です。こちらでも昨年度の3月の協議会でほぼ説明をしておりますので、その後確定した事業等について説明をします。まず、プラネタリウムの特別投映についてです。「こどもむけ☆ぷらねたりうむ」は昨年度から定例化し、「会場で泣いてもお互い様」という環境で提供しているものです。奇数月の第3土曜日に行っておりまして、直近では9月19日に開催予定です。また、一般向けの全天周映画『海竜王モササウルス』が7月7日から上映開始となり、好評をいただいております。星景写真展は今年も実施する予定です。

科学講演会としては、10月3日に国立天文台の平松正顕さんの講演会を行います。プラネタリウムコンサート・ショーとしては、5月29日に「爆笑！星兄プラネタリウムショー」を、7月4日に「プラネタリウムコンサート～たなばた特集～」を実施したところです。

また特別企画ということで、5月の連休には「こどもの日スペシャル」を開催し、サイエンスショー等を行いました。8月22日には「ライフパークの集い」、9月のシルバーウィークには「秋の実験ライブショー」、11月14日、15日には「青少年のための科学の祭典」、2月7日には「こどもまつり」があります。公開教室では8月20日に旧倉敷天文台観測室で月面Xの観望会、9月25日に倉敷みらい公園で中秋の名月を観る特別天体観望会が行われます。

「移動プラネタリウム」については、これまで好評をいただいていたが、機材の老朽化等もあって安定的な運営が危ぶまれるということで、今年度は実施しない予定です。

また先ほど旧倉敷天文台観測室のことを申し上げましたが、日本初の公開天文台である倉敷天文台が今年100周年を迎えました。倉敷科学センターでは今年の3月21日に天文講演会を開催したところです。それに合わせて全国的な学会を倉敷市内で開催していただいております。6月29日から7月1日にかけて日本公開天文台協会がライフパークで行われました。11月28日、29日には市立美術館で東亜天文学会が開催されます。以上が説明になります。よろしくお願いします。

【会 長】 令和 7 年度事業報告及び令和 8 年度事業計画について、何か御意見・御質問がございますか。

【委 員】 移動プラネタリウムについて、昨年度は 2,509 人利用されていて好評だったのではないかと思います。修理は難しいのでしょうか。

【事務局】 投影機が平成 14 年製と古く、当時の技術者も既にないないような状況で、維持は難しいと思われます。

【会 長】 岡山県への依頼や、安価な投影機を導入する等、なにか良い方法があれば検討したいですね。

今回上映が始まった全天周映画『海竜王モササウルス』も、先日大阪で新種のモササウルスの化石が発見されたニュースがあったので、ちょうど良いタイミングだったかなと思います。他に意見等ございますか。

【その他、委員からの意見なし】

【会 長】 それでは次第 3 の(2)「令和 7 年度事業実績について」及び(3)「令和 8 年度事業計画について」の報告はそれぞれ認められたこととします。

(4)令和 8 年 11 月期及び令和 9 年 3 月期全天周映画上映作品の選定について

【会 長】 続いて、次第 3 (4) の令和 8 年 11 月期及び令和 9 年 3 月期全天周映画の上映作品の選定に移りたいと思います。作品を視聴するため、会場の移動をお願いします。

(プラネタリウムで全天周映画 3 作品を視聴 約 100 分)

1 作品目：『水の惑星 星の旅シリーズ』

2 作品目：『オーロラ 生命の輝き』

3 作品目：『クレヨンしんちゃん キラキラ☆星降る夜のお約束だゾ』

【会 長】 それでは全天周映画の上映作品について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 資料「全天周映画上映作品の選定について」をご覧ください。全天周映画作品は、年間 3 本、7 月、11 月、3 月に新作を導入しております。今回選定していただくのが、令和 8 年 11 月から上映する作品 1 と令和 9 年 3 月から上映する作品 2 になります。候補となる 3 作品として、倉敷科学センターの職員を対象とした試写の評価ランキングにおける、上位 3 作品をご覧くださいました。表中に星印の評価がありますが、職員の評価から分析して、作品がより子ども向け、ファミリー向けのものか、あるいは大人向けで科学性の高いものかという傾向を示しています。星印が左にあるほど子ども向け、右にあるほど大人向けという見方になります。また、次のページには、近年の上映作品一覧を掲載しています。

次に「全天周映画作品選定のガイドライン」をご覧ください。令和 8 年 7 月までは作品 A『超巨大恐竜』、B『コズミック・クルーズ』、C『名探偵コナン』の 3 本を

上映していました。7月に今期が切り替わり、現在は作品B『コズミック・クルーズ』、C『名探偵コナン』、D『モササウルス』が上映されています。今回選定いただく上映作品については、作品C『名探偵コナン』、D『モササウルス』との組み合わせについても、御考慮いただければと思います。いずれの作品が科学センターの上映番組としてふさわしいか、御協議をお願いいたします。

【会 長】 ありがとうございます。今回の選定については、作品1が現在上映している作品『コズミック・クルーズ』の後番組、作品2が『名探偵コナン』の後番組ということになります。それでは、作品の感想を含め、委員の皆様から順番に御意見をいただきたいと思います。

【委員A】 最後に見た『クレヨンしんちゃん』は子ども向けでストーリーも分かりやすく、その中に金星の見え方の秘密など科学的な学びも含まれていて、非常に人気が出そうな作品だと思いました。今後のラインナップを考えると、『コナン』の次の作品の候補としてふさわしいのではないかと思います。

残りの2作品については、どちらも大人向けの傾向が強い作品で、映像が非常に美しく、見ていて飽きませんでした。『オーロラ』は、最初から最後まで一貫してオーロラの映像を見る内容でしたが、ただ綺麗なだけではなく、オーロラのメカニズムなど、学びが多い作品だったと思います。『水の惑星』は、映像は美しいものでしたが、何か一貫して学べるものは少なく、焦点が絞られていたのは『オーロラ』のほうだったと思いました。どの作品も大変良かったので、どちらが選ばれたとしても科学センターに来るお客様の満足度は高いんじゃないかなと思いました。

【委員B】 私も同意見です。作品2としては『クレヨンしんちゃん』一択かなと思います。

作品1については好みの問題もあるかと思いますが、『オーロラ』は一つのテーマに絞って深く掘り下げている一方で、オーロラの場面が多くて、綺麗なんですけども少し飽きがくる懸念もあります。逆に『水の惑星』はいろいろな要素が入っていて映像も美しいですが、テーマが少し分散している印象を受けました。どちらも映像的には美しいもので、それぞれ学びもありましたので、甲乙つけがたいなと思いました。

【委員C】 私も作品2としては『クレヨンしんちゃん』一択だと思います。来年3月以降はアニメ作品が無くなる時期ですし、『クレヨンしんちゃん』は大人も子どもも楽しめる作品で、あっという間に上映が終了したように感じました。その中でも金星の見え方などの科学的な学びもあってすごく良かったなと思います。

作品1については私も迷いましたが、『水の惑星』は内容盛りだくさんで、風景や宇宙の要素がバランスよく盛り込まれていましたが、同じような風景も出てきて、少し飽きてしまう部分もありました。もう一度見たいと感じたのは『オーロラ』で、全天周映画の醍醐味である「没入感」を感じることができ、見ているうちにその場にいるかのような感覚になってきて、さらにオーロラのメカニズムの説明も分かりやすく、冒頭の国際宇宙ステーションの場面も臨場感があって、お得感を感じるこ

とでできました。「もう一度見たい」「他の人にも見てほしい」と思えたのは『オーロラ』でしたので、作品1としては『オーロラ』を推したいと思います。

【委員D】 私も作品2は『クレヨンしんちゃん』かなと思います。

作品1については、近年の猛暑や地震などの自然の恐ろしさを感じるなかで、自然の美しさを知ることができるという点で、両作品とも良いな思いました。個人的には『水の惑星』の方が映像も綺麗で、説明の言葉が専門的すぎず分かりやすかったです。上映中の『モササウルス』と海や水のイメージが被るのは気になりますが、個人的に好きなのは『水の惑星』です。

【委員E】 『クレヨンしんちゃん』については同意です。

作品1については、シートを倒して空を見たときの映像が良かったので、私は『オーロラ』を推したいなと思いました。

【委員F】 作品2は皆さんおっしゃられるとおり『クレヨンしんちゃん』一択なのかなと思います。

作品1ですが、映像はどちらも綺麗なのでプラネタリウムの全天周の映像に合っているなと思います。個人的な好みにはなりますが、『オーロラ』の方がワクワク感があったので、『オーロラ』を推したいと思います。

【委員G】 『クレヨンしんちゃん』は、子どもが最後まで集中して見られる作品だと思います。ストーリーに深みがもう少し欲しかった気もしますが、子ども向けには良いです。

『水の惑星』は同じような映像が繰り返されるので、少し飽きてくるなというのが正直な感想です。『オーロラ』は解説もあって学びもありますが、「上を向いてオーロラを見上げる」というのはプラネタリウムでしかできない体験なのではないかと思いました。現地の声も入ることによって、あの歓声のなかで実際にあれだけオーロラが動くんだろうなという臨場感を感じることができました。

【委員H】 私も作品2は『クレヨンしんちゃん』が良いと思いました。

作品1については『水の惑星』が良かったです。星の話だけでなく土星や木星など幅広く知ることができて、また見に行きたいという期待感がありました。『オーロラ』は現地の人の声が少し気になったのと、メカニズムの説明が私には少し難しく感じてしまいました。

【委員I】 作品2は『クレヨンしんちゃん』で良いと思います。『コナン』に比べると集客力が少し落ちるかもしれませんが、低年齢層の子ども向けの映像としては間違いないと思います。

『水の惑星』は、映像もきれいで迫力もありましたが、上映時間が35分と少し長く、同じような景色が流れている印象でした。『オーロラ』は、ツアーの人たちの声も含めて臨場感があり、歴史などの話も含まれていたのが興味をもてました。シートを倒したときの心地よさも『オーロラ』のほうが良いなと思いました。

【会 長】 私も『オーロラ』が良かったなという印象です。実際に映像で見る機会には恵まれなかったので、この映像で満足するか、これを見て現地に行きたくなるかは悩ましいところですが。教育的には『水の惑星』も捨てがたいと思いました。

それでは結論を出していきたいのですが、作品 2 については全会一致ですので『クレヨンしんちゃん』にしたいと思います。作品 1 について、傾向としては『オーロラ』が多いかと思いますが、あらためて多数決を採りたいと思います。まず『オーロラ』がいいと思われる方、挙手をお願いします。

【7 人が挙手】

【会 長】 続いて、『水の惑星』がいいと思われた方、挙手をお願いします。

【3 人が挙手】

【会 長】 ありがとうございます。それでは多数決の結果、令和 8 年 11 月期からの上映作品を『オーロラ』、令和 9 年 3 月期からの上映作品を『クレヨンしんちゃん』という結論にして、答申書を作成します。

(6)その他

【会 長】 その他、事務局から何かありますか。

【事務局】 今年度の第 2 回協議会の日程調整を行いたいと思います。後日メールを送りますので、返信をよろしくお願いいたします。

【会 長】 以上をもちまして、本日の協議会で予定されていた全ての議事が終了しましたので進行を事務局にお返しします。

(ここから事務局が進行)

4 閉会

【事務局】 長時間にわたり御審議いただき、ありがとうございました。これをもちまして科学センター協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

以上を、令和 8 年 8 月 19 日開催の令和 8 年度第 1 回倉敷科学センター協議会議事録とすることに同意します。

令和 8 年 9 月 15 日

会 長 福田 尚也